



ふるさとポケットガイドブック

シリーズ④

標茶 釧路集治監

ご案内します。どこより素敵なわたしたちのふるさと。

スケールの大きな自然で知られる根釧台地は、その地理的条件、

歴史的役割のうえに独特の文化、情緒をはぐくんできました。

歴史、伝統、そして人情も、実に味わい深い土地柄です。

この魅力を少しずつでもかたちにしたいと、

本シリーズの企画・制作をスタートさせました。

名所を巡りながら、力強く生きる人々の営み、

思いに触れていただくガイドブックです。

地元の方には、もう一度ふるさとに会い、また好きになるきっかけに、

旅の方には、発見と感動への水先案内人となることを願って。

大地みらい信用金庫

創立100周年記念事業実行委員会

大地みらい基金

設立30周年記念事業実行委員会

～ふるさとの記憶をみらいへつなぐ～

I N D E X

フロンティアスピリットの前にあったもの。
北海道、もうひとつの開拓史。…………… 03

時代	江戸から明治、激動の中で。
	土族の反乱と自由民権運動 …………… 05
	フランス発大規模監獄 …………… 06
	伊藤博文「北海道に監獄を」 …………… 06

まち	標茶のまちの産声は
	集治監とともに。
	未開の地に一大集落出現 …………… 07
	「金のなる木は標茶の山」 …………… 07
	小学校も、公立病院も …………… 08

明治20年代後半の標茶市街図 …………… 09

開拓	総延長約820km、
	囚徒が開いた北海道
	硫黄採掘、土木・建設、農業 …………… 10

生活	堀の中の暮らし。
	衣、食、病 …………… 13

人物	集治監の人々
	職員、囚徒 …………… 15

あとの	集治監のあとの標茶
	閉監で囚徒と職員、
	すべてが網走に移動。…………… 17
	集治監がそのまま
	軍馬補充部川上支部に。…………… 17
	強い馬を育てることに
	地域が沸いた。…………… 18
	「日本釧路種」で
国内有数の馬産王国に。…………… 18	
標茶で唯一現存する駅通、	
塘路駅通所。…………… 19	
庁舎はいつもまちのシンボル。…………… 20	

あれこれ標茶 …………… 21

標茶の自然を遊ぶ。…………… 23

標茶マップ …………… 25

フロンティアスピリットの前にあったもの。 北海道、もうひとつの開拓史。

明治期から始まり、国家の近代化と共に進められた北海道の開拓。屯田兵や移民が、進取、不屈の精神で新天地におろした鉄の跡が年月をかけて、北海道らしい風景、産業、文化を創造してきました。でも、そのフロンティアスピリットの前にあったものをご存じでしょうか。やがてやってくる入植者のために、命を危険にさらし、むき出しの野生と対峙して原始林を切りひらいたのは「ここに来たら2度と生きては帰れない」と恐れられた監獄の囚徒たち。ふだんは表舞台に出ることのない、もうひとつの開拓史に光をあててみましょう。

標茶(しべちゃ)

アイヌ語の「シ・ベツ・チャ」(大きな・川の・岸)がなまったものです。その名の通り釧路川、別寒辺牛(べかんべうし)川、西別川の三大河川により開拓と産業の歴史が刻まれています。

江戸から明治、 激動の中で。

国のかたちがドラスティックに変わった幕末から明治、改革期のまっ只中に「集治監」はできました。なりたちをたどって見えてくるのは日本の歴史の舞台裏です。

士族の反乱と自由民権運動

明治政府は、日本を欧米列強と並ぶ近代国家づくりを急ぎました。その中で段階的に特権を剥奪されていく士族の不満は増していき、佐賀の乱(1874年/明治7)に始まり西南戦争へと続く士族の反乱が各

地で起こりました。加えて同時期に自由民権運動が活発化します。政府は激化する反政府の動きを鎮圧し政情を安定させましたが、多くの政治犯を抱えることとなりました。



集治監庁舎前にて

フランス発大規模監獄

この頃政府は、フランス刑法の影響を強く受け、日本で最初の近代法といわれる刑法づくりを進め、フランスにならい全国での模範監獄設置を計画していました。明治11年には元老院で「全国ノ罪囚ヲ特定ノ島

嶼ニ流シ総懲治監トスル」を決議。激増する政治犯への処置に頭を悩ませていた政府は、フランスの中央監獄(メゾン・セントラル)を邦訳した「集治監」の設置へ動きだしました。

伊藤博文「北海道に監獄を」

当時は道南を除いてほとんど未開の地であった北海道への集治監設置を提案したのは内務卿・伊藤博文です。そこには(1)危険分子・凶悪犯を隔離して治安を維持(2)安価な労働力として開墾に当たらせる。自給

自足で経費節減(3)出獄後は北海道に定住させ人口増に、という3つの目的がありました。一石三鳥を狙った北海道の集治監には、旧法の徒刑・流刑・終身懲役、重罪囚が集められることになりました。

北海道にあった3つの集治監と2つの分監

樺戸集治監

(現・月形町)
1881年(明治14)～1919年(大正8)

空知集治監

(現・三笠市)
1882年(明治15)～1901年(明治34)

釧路集治監

(現・標茶町)
1885年(明治18)～1901年(明治34)

釧路監獄署網走外役所

(現・網走市/網走刑務所)
1890年(明治23)～1897年(明治30)
1898年(明治31)～1903年(明治36)
1903年(明治36)網走監獄に名称変更
1922年(大正11)網走刑務所に名称変更

北海道集治監十勝分監

(現・帯広市)
1895年(明治28)～1976年(昭和51)



※集治監は後に監獄署、刑務所へと改称。

標茶のまちの産声は 集治監とともに。

1軒の家もなかった場所につくられた、東西一里、南北四里の整然とした町並み。1885年(明治18)11月、開庁した釧路集治監は現在の標茶市街地の母体となりました。

未開の地に一大集落出現

釧路集治監は現在の標茶高校の場所に建設されました。建設は、着工時は各地から集まった請負、途中からは収容された囚徒が担いました。1885年(明治18)11月、釧路集治監開庁。初年度200名弱の囚徒が収監され、職員約70名は官舎建築が間に合わず合宿状態での標茶暮らしが始まりました。

釧路集治監開庁の翌年、北海道庁は集治監付近の土地を釧路川に沿って70坪(間口7間、奥行10間)を1戸分として区画割り、50区画を市街地用地として払い下げました。集治監前から開運橋に至る十間道路の両側に店舗や民家が次々と建てられ、整然とした市街地の体裁が急速に整えられていきました。



標茶市街(明治28年頃)

「金のなる木は標茶の山」

1886年(明治19)の後半、標茶のまちには80戸、約300人の住人に加え全国から集まった建設労働者が200人いました。その8年後、日清戦争が起こった明治27年には、戸数は約400戸、人口は5,500人を超えるまでになりました。

商店街もできました。集治監は基本的に自給自足ですが、監内で調達できないものはまちの店で購入するためです。多様な小売店、問屋、飲食店が多数開店し、賑わいました。飲食



3階建ての「太平」。旅館、料理屋、風呂屋、床屋を備えた繁盛店でした。写真提供/北海道大学附属図書館

店は高めの料金設定にもかかわらず繁盛し、芸妓3名もひっぱりだこ、明治26、27年頃の全盛期は釧路にも見られない光景で「金のなる木は標茶の山」とまでうたわれました。

小学校も、公立病院も

当時の集治監は地方行政を代行する機関でもありました。塘路に仮設されていた役場は集治監構内に移転、郡役所、警察署も構内に置かれました。標茶町最初の学校は、集治監の構内に職員の子どものため

につくられた標茶簡易小学校、初めての医療機関も構内の医務所でした。どちらも後に構外へ移転しますが、集治監は名実ともに標茶のまちの中心でした。

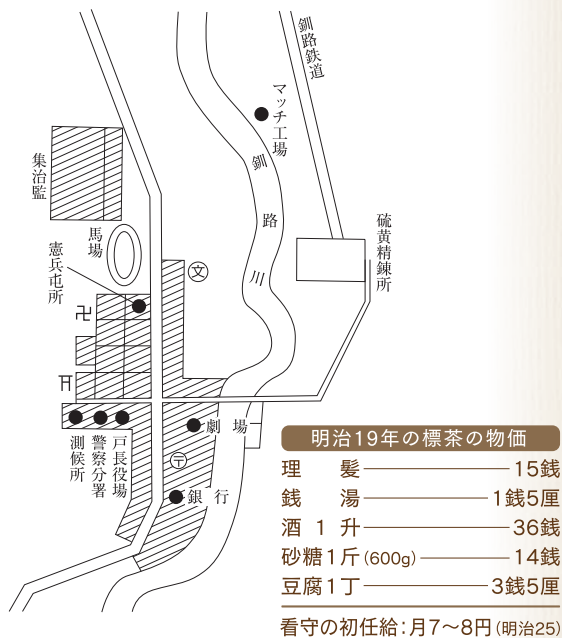


標茶小学校(明治35年)



本間商店(明治30年頃)

明治20年代後半の標茶市街図



●マツチの軸木工場 (鳴行舎)

明治27年から4年間のみ操業。蒸気機関を備え、従業員は約50人いました。

●硫黄製錬所

明治20年に建設された近代的設備をもつ硫黄製錬所。屈斜路村の硫黄山で採掘された硫黄が鉄道でここに運ばれ、製錬され、釧路川の汽船で釧路港を経て輸出されていました。(硫黄山は明治29年に廃鉱)



鳴行舎

開拓



釧路鉄道ニタロマップ駅 (明治28年頃)

総延長約820km、
囚徒が開いた北海道

釧路集治監の囚徒には、労役として道路開削、硫黄鉱開発、農地開墾、屯田兵屋建設などが割り当てられました。未開の地に行く、開拓に先がけた基幹工事は、囚徒の命がけの労働のもとに成し遂げられました。

硫黄採掘

跡佐登硫黄山 (現・弟子屈町) の硫黄採掘には集治監開設前から囚徒の労働力があてにされていました。しかし、500人の囚徒が従事した採掘現場には亜硫酸ガス、硫黄の粉じんが充満。失明する囚徒が続出、栄養失調もあり様々な病気を発症し死亡者も多く出ました。看守たちも意識がもうろうとした状態で勤務していました。1887年 (明治20) 8月、視察でこの惨状を目の当たりにした



採掘した硫黄の一般労働者による運搬風景 (明治28年)
写真提供 / 北海道大学附属図書館

原胤昭 (後に教諭師として着任) が典獄の大井上に報告、大井上の英断により1年あまりで囚徒による硫黄採掘は中止されました。

土木・建設

広大な北海道を貫く、主要幹線道路は、道内各地の集治監の囚徒たちの過酷な使役によって開削されました。釧路集治監も、東北北海道の開拓の中核として短期間で大きな功績を残しています。中央道路（北見道路）と呼ばれる北見峠・網走間の開削時につくられた釧路集治監網走外役所は、網走刑務所の前身です。

屯田兵村建設にもあたりました。太田村（現・厚岸町）では屯田兵440戸の入植のために屯田兵屋、中



囚徒たちが開削（かいさく）した道（塘路～シラルトロ間・撮影／昭和20年代）

隊本部諸施設、官舎など一連の施設を建設。当時は測量技術に乏しく、作業技師は真夜中に星の位置を確かめ、木や山を目標にして測量を進めたというエピソードも残ります。



農作業の様子。農地を8区画に分け、土地に適した8種の作物の輪作も行われました。

農業

原野を開墾しての農耕は基本的に自給自足のためでしたが、同時に、この地で耕作可能な作物の選択、耕作方法、家畜の飼養など、寒冷地農業を知らない開拓民のための農業試験場的な役割も果たしました。北海道では難しいといわれていた水稲を含め、40種以上の作物の耕作が試みられました。

大規模土木事業廃止後、明治29年より廃監までの5年間は1日平均250名が農業に従事、約227町（2.25km²）を開墾し、作付面積は最大約192町4反（1.91km²）に達しました。しかし、地理的な条件から農業では大きな成果を挙げられなかったことが明治34年の事実上の網走移転の背景にあつたとみられています。

※1町=9,900㎡=3,000坪 1反=990㎡=300坪

囚徒は消耗品？

北海道開拓における囚徒労働の基本にあつたのは、労苦を与えて監獄の恐ろしさをたたき込むことが再犯防止になるという「苦役本分論」です。当時は、囚徒は悪徳なのだから苦役に耐えかねて死んでもかまわないとも考えられていました。

釧路集治監の行った主な土木作業

釧路川疎通

▶約6里
(明治22年3月竣工)

網走—上川間中央道路

▶幅3間・延長45里
(明治24年12月竣工)

標茶—厚岸間道路

▶幅2間・延長9里26町
(明治21年11月竣工)

大津—伏古間道路

▶幅3間・延長11里31町
(明治27年3月竣工)

標茶—釧路間道路

▶幅2間・延長11里32町
(明治22年11月竣工)

硫黄山—網走間道路

▶幅2間・延長9里28町
(明治23年11月竣工)

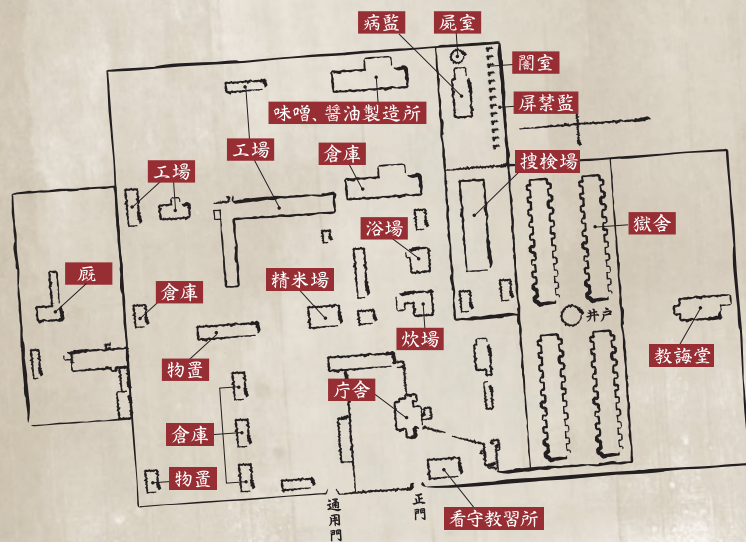
厚岸・太田屯田兵屋

▶492棟
(明治23年5月竣工)



塀の中の暮らし。

囚徒は畳も暖房もない監房で寝起きし、
 ほぼ日の出とともに起床、
 平均9時間、6月、7月は
 10時間半作業や外役に従事しました。
 起床から就寝まで動作はすべて
 号令により行われ、
 房では基本的に正座が
 義務づけられていました。



明治26年頃の釧路分監建物配置図(「北海道集治監第三回統計書」より)

◎^{し。}赭色の服。

襦袢の上に筒袖の着物に股引、冬には綿入が貸与
 されました。そのすべてが、外でもよく目立つ真っ赤。
 そのため「あかんぼ」「赤鬼」という蔑称もありました。
 逃走して着替えても一般人と区別できるよう、もみ
 あげは剃られていました。外での作業の時は、2人を
 鉄鎖か縄でつなぎ、顔を覆うように笠をかぶりました。
 脱走を図った者の足には重さ1貫(約3.75kg)の
 鉄丸が付けられました。



写真提供/博物館網走監獄

◎^{食。}一汁一菜。



写真提供/博物館網走監獄

主食は米(くず米)と雑穀(麦・あわ・
 ひえ)4:6の混合で、量は重労働者1日
 8合から軽作業者1日5合まで作業の
 重さで違いました。たまに塩魚や豆腐
 などが出ましたが栄養バランスは考慮
 されず、いも飯にいもの味噌汁、いもの
 煮付けといった献立もあったようです。

◎監獄は病の器。

外役所では主食にたくあん、具のない味噌汁と
 いったような特に粗末な食事が続いたこともあり、
 多くの病人が出ました。明治20年の冬には外での
 作業により600人が凍傷にかかっています。明治23
 年にはコレラの発生もありました。記録では病気に
 より死亡した囚徒は456名。遺骨は親族が引き取ら
 なければ合葬されました。

1953年(昭和28年)建立の「標茶集治監死亡者の碑」には、
 在監16年あまりの間に死亡した505人がまつられています。



📖 集治監や時代の空気をつかむなら

『赤い人』

吉村昭 著(講談社文庫)
 極寒の地の集治監
 での囚徒たちの極限
 のドラマ。

『ニコライ遭難』

吉村昭 著(新潮文庫)
 未曾有の国難・大津
 事件当時の日本を
 活写。

『流刑地 哭く〜クリスチャン 典獄と白虎隊看守長』

若林滋 著(中西出版)
 集治監・監獄をめぐる挿話で明
 治行刑に迫る。

集治監の人々

職員

集治監の職員は、激動の明治維新を生き延びた人たち。いまの刑務所長にあたる典獄(てんごく)、教誨師(きょうかいし)にも我が国の行刑史に名を残す、気骨ある人物が揃っていました。



初代典獄

大井上 輝前 (おおいのうえ てるちか)

在任期間 1885年(明治18)9月～1890年(明治23)8月

米国留学経験があり進取の気性に富む大井上は「監獄は罰を科す場ではなく社会復帰の場」という当時としては先進的な考えで監獄改革を断行しました。国家主義へ向かう時代の中で、過酷な使役の見直し、出獄後の社会復帰支援など一貫して囚徒の人権を擁護しました。

原 胤昭 (はら たねあき)

在任期間 1888年(明治21)4月～1892年(明治25)12月

道内初の専任キリスト教教誨師だった原は、「更生保護の父」と呼ばれます。後年私費で設立した東京の保護所で1万3000人の出獄人を受け入れるなど原の活動は現在の保護司制度の礎となりました。また、児童虐待の問題を我が国で初めて取り上げたことでも知られます。



教誨師



看守長

有馬 四郎助 (ありましろすけ)

在任期間 1886年(明治19)12月～1889年(明治22)

当初は囚徒も恐れる「鬼有馬」でしたが、大井上や原、人道主義、キリスト教との出会いを経て、初代網走分監長着任後は「愛の典獄」と呼ばれる存在に。後に少年の出所者のための保護更正施設や、教育と就労のための家庭学園を設立しました。

写真提供/吉川弘文館

囚徒

およそ16年の釧路集治監開庁期間に収容された囚徒は、のべ約2万人。全国に名を知られた義賊、国事犯から世紀の脱獄王まで、監獄は数奇な人生が交差する場所でした。



大津事件

津田 三蔵 (つださんぞう)

収監期間 1891年(明治24)5月～9月

明治の一大外交事件が、日本を三権分立を貫く法治国家へ。

1891年(明治24)5月11日、滋賀県大津の路上で来日中のロシア帝国皇太子ニコライを警護担当巡査・津田三蔵がサーベルで負傷させた事件。警官による暗殺未遂は外交上未曾有の危機、日本はパニックとなりました。明治天皇自らが側近の反対を押し切って見舞い、謝罪するという最大限の対応もあり、ニコライ皇太子は非常に冷静、寛容でしたが、津田の量刑が問題でした。政府は日ロ関係の悪化を恐れ、日本の皇室に対する大逆罪の適用、死刑を強固に主張。日本の皇室とロシア皇太子を同一視し強国の前に自国の法を曲げるか否か、世界もその判決に注目する中、大審院長が言い渡したのは刑法通りの無期懲役。三権分立を貫いたことで、日本は近代国家として世界に認められる道筋を作ることとなりました。

判決後、津田は無期徒刑囚として釧路集治監に収監されました。しかし、犯行動機を語ることもないまま同年9月29日肺炎で獄中死しました。

五寸釘 寅吉 (ごすんぎ とらきち)

収監期間 1893年(明治26)～1901年(明治34)

本名は西川寅吉。小柄で卓越した運動能力をもち、五寸釘を踏み抜いた足でも走り続け、各地で収監、脱獄を繰り返しましたが、釧路集治監ではそれも封印。刑の執行停止で出獄後は「五寸釘寅吉劇団」として全国を巡業、昭和13年頃には軍馬補充部となっていた釧路集治監跡地にも立ち寄っています。



脱獄王

写真提供/博物館網走監獄

集治監のあとの標茶

1901年(明治34)、標茶の集治監は廃止、囚徒は網走へ移されました。賑わいの去ったまちに再び息を吹き込んだのは6年後、集治監跡地に置かれた軍馬補充部。標茶に初めての基幹産業が生まれました。



標茶軍馬補充部川上支部全景

閉監で囚徒と職員、すべてが網走に移動。

1885年(明治18)開設の釧路集治監は、北海道集治監釧路分監と名称が変更された後、1901年(明治34)閉監となり、職員と囚徒、一切が網走分監に移されました。

後に「網走監獄」「網走刑務所」として全国に名をはせる網走分監は明治23年、釧路分監の外役所(道路建設のための宿泊所)として誕生しました。1,200人の囚徒、職員と家族が標茶から移り住み、人口631人の漁村だった網走に賑わう

まちが形成されていきました。創設の翌年には網走分監として独立しましたが、明治30年の恩赦による囚徒数激減でいったん閉鎖、その後再び釧路分監の出張所となるなど、その黎明期には標茶との強いつながりがありました。

標茶では、明治27年に釧路に匹敵する5,500人超を誇った人口も集治監閉監の翌年には1,340人に、その翌年には弟子屈・屈斜路両村の分離でわずか600人となりました。

集治監がそのまま軍馬補充部川上支部に。

火が消えたような標茶のまちに再び活気を戻したのは軍馬補充部でした。日露戦争後の1907年(明治40)、集治監の施設・用地が軍に移管され、翌年軍馬補充部川上支部が発足しました。集治監のシンボルであった庁舎は軍馬補充部の本部に、獄舎は厩舎に、文庫は資材庫にと、転用されました。標茶本厩、多和分

厩、牧場、畑など総面積は約3万町歩(297km²)と記録されています。



標茶軍馬補充部川上支部

強い馬を育てることに地域が沸いた。

軍馬補充部は、満州やシベリア、極寒の地の戦いにも耐える強い軍馬を育てる機関でした。民間から2歳馬を高値で買い上げ、5歳まで育成訓練して軍隊に送り込んでいました。馬は輸送・交通手段として古くから身近な存在。集治監が中心になって官民合同の競馬会も毎年開催されていた標茶には馬産の基礎ができており、気候風土も軍の求める強い馬を育てるにはうってつけ、馬産王国へ向けて駆け足の発展が始まります。

農家はこぞって馬を育て、軍馬に合格すれば人を招いてその名誉と高値を祝い、資産家は投資として農家に生産・育成をゆだね、馬産によって地域に活気が戻って来ました。



軍馬入部風景

「日本釧路種」で国内有数の馬産王国に。

昭和に入ると、馬の神様と呼ばれ、標茶(阿歴内)の馬産の指導者でもあった神八三郎により、日本人の体格に合い、がっちりとした胸とたくましい筋肉が特長の「日本釧路種」、続いて「奏上釧路種」の新品種が誕生。「馬産釧路」の名が日本中に知られるようになりました。



日本釧路種 ~神八三郎伝より~

標茶で唯一現存する駅通、塘路駅通所。

郷土館の隣にあるのは1890年(明治23)に設置された「塘路駅通所」(町指定文化財)です。駅通は開拓時代の北海道独特の交通システムで、集治監の囚徒が開削した釧路一網走間の道路に十数キロごとに置かれ、最も多いときで標茶町内に14の駅通がありました。塘路駅通では、荷物や人を乗せる馬、荷物を運ぶ人足を次の駅通まで貸し出していました。釧路からの移動は、釧路川を船で3日間ほどかけて塘路へ、ここで1泊して馬を借り標茶市街へ向かうことが多かったようです。

ちなみにこの建物は、現在の大工が「どうやって建てたかわからない」と首をひねる独特の建築様式。そのため、梁などを見える状態で公開しています。



明治期の不思議建築。



●旧塘路駅通所(標茶町指定有形文化財)
標茶町字塘路※標茶町郷土館付帯施設
TEL:015-487-2332(標茶町郷土館)
開館:9:30~16:30(11月1日~5月30日は休館)
入館料:無料



現在は標茶町の郷土館として使われている釧路集治監本庁舎。天井を支える木材も当時のまま、粗く削り出したミズナラの本材です。太いミズナラと、2階天井裏のトラス構造により、幾多の地震にも耐えたと考えられています。屋根材の一部には建築時の請負者の名前の墨書きが残ります。

庁舎はいつもまちのシンボル。

明治期の洋風建築の庁舎は、集治監閉鎖後、軍馬補充部の本部として使用され、終戦の翌年1946年(昭和21)からは標茶農業高等学校(後に標茶高等学校)の校長室や職員室を備えた学校庁舎として使われ、住民にも「本監」の名で親しまれました。昭和32年の新校舎落成でその役目を終えた後は標茶町が買い取り、1969年(昭和44)、「北海道百年記念地域事業」の一環として老朽化した建物の移転復元が認められ、半年がかりで塘路湖畔に移されました。標茶の黎明期から80年以上にわたってまちの歴史と共にあった庁舎は、標茶町文化

財第一号として大切に守られながら、いまでも多くの人を迎えています。時々「祖父が看守でした」という訪問者も訪れるそうです。



階段はすり減ったステップも当時のまま。いったい何人の人が上り下りしたのでしょうか。

あれこれ 標茶

記憶に刻まれるこのスケール感。

広い標茶、湿原、丘陵、平野からなる標茶。
集治監設置から急速に発展した市街地で
まちの成り立ちに思いをはせたら、展望台から絶景を！

日本一広い 標茶高等学校

終戦で軍馬補充部が解散すると、集治監から引き継がれたその広大な敷地や建物を活用して、1946年(昭和21)標茶農業学校が開校しました。現在の標茶高等学校です。軍馬補充部時代の厩舎(集治監の獄舎)は牛舎に転用、他の多くの施設も改装を経て利用し、広大な敷地と環境を生かして近代酪農を实践、優秀な酪農家を輩出し標茶を酪農王国へと導きました。いまも東京ドーム55個をすっぽり収める255haの構内では循環型酪農が実践され、地域産業の担い手が育っています。



「文化理解」「地域環境」「酪農・食品」の3系列で体験的学習を多く展開。構内では放牧型酪農の実践も。



正門横には、1898年(明治31)築の集治監の文庫が当時と同じ場所に残っています。

日本一広い町営牧場！

標茶町育成牧場

多和と上オソベツの2エリアで原野山林を含めて合計2,128haの規模を誇ります。酪農家から生後6カ月以上の雌牛を預かり、14～15カ月まで放牧によって丈夫に育て、高品質の生乳生産を支えています。夏季には最大3,000頭の乳用牛に加え、サフォーク種などの羊も最大150頭が放牧され、のんびりと草をはんでいます。



どこまでもなだらかな牧草地帯が続く道道1040号線を行くドライブは爽快。空が大きい。

ぐるっと
360度の
パノラマ

多和平展望台



町営牧場内に設けられた展望台。1,279haの丘陵地帯の放牧地と404haの採草地が360度パノラマで広がります。酪農王国ならではのこの風景、手つかずの自然とはまた違った、人の営みと自然が調和した標茶の代表的な表情の一つです。4～11月は標茶町を愛する飲食店、特産品販売店が集まるグリーンヒル多和も営業しています。

◎グリーンヒル多和
標茶町字標茶788番地5(上多和) TEL:015-486-2806

オオカミの森

Howlin'Ks Nature School(ハウリンケイズ・ネイチャースクール)



西別岳の麓、約2万㎡の林に、日本では絶滅してしまったオオカミを海外から移入、ネイチャースクールを開催し、生態系が本来の姿を取り戻すことの重要性や、人と動物の共生を考える場をつくっています。オオカミの目で自然を考える「オオカミ自然教室」に加え、乗馬トレッキングも実施。週末に宿泊可能なセミナーハウスも備えています。

◎(株)オオカミの森(完全予約制)
標茶町虹別原野672-4 TEL:015-488-2523



標茶の自然をあそぶ。

釧路湿原の42%、
阿寒国立公園の12%を擁し、
2つの国立公園に抱かれた標茶。
ワイルドな魅力に秘められた
自然の繊細な表情を車窓から、
水面から、視点を交えて何度でも。

ようこそ、釧路湿原へ。

気の遠くなるような年月をかけてできた自然の造形美といのちの巡りに、感動する力が呼び覚まされます。

【塘路湖】

●アクティビティ

カヌー、ネイチャーウォッチ

塘路湖は釧路湿原を案内するガイドが常駐するアクティビティ基地。1時間半のカヌーツアーは湿原の深奥部に触れられる貴重な体験。



- 塘路ネイチャーセンター TEL:015-487-3100
(ネイチャーウォッチング、カヌーツアー)
- ひがし北海道アウトドアセンター TEL:015-487-3111
(カヌー、ラフティング)
- 元村ハウスばる(レイクサイドとうろ) TEL:015-487-2172
(リバーツーリング、湿原体験ウォッチング)

キャンプ

湿原と五感で会話するような滞在を。夜は贅沢な星のシャワー。



- 塘路元村キャンプ場 …… TEL:015-487-2172
- 虹別オートキャンプ場 …… TEL:015-488-2550
- 多和平キャンプ場 …… TEL:015-486-2806
- シラルトロ湖キャンプ場 …… TEL:015-487-2121



●エコミュージアムセンター「あるこっと」

ジオラマや大画面で、湿原のいのちの源である「水」、多様性に富んだ動植物を解説。



TEL:015-487-3003
営業時間:4~10月 10:00~17:00
11~3月 10:00~16:00
休館日:水曜日、年末年始(12/29~1/3)

【湿原を見て、感じるなら、展望台】



コッタロ湿原展望台

釧路湿原の原型といわれるコッタロ湿原。未舗装の道を5km、200段以上の階段を上る価値あり。



サルボ展望台

JR塘路駅から徒歩20分。国道391号線沿いに駐車場あり。急勾配の坂道を上れば展望台です。



サルルン展望台

林の中を約600m進んだところにある、4つの沼を視界におさめる展望台。

- 標茶町郷土館
- 標茶町発祥の地記念碑

標茶町の開基は塘路に戸長役場が設けられた1885年(明治18)。役場は翌年集治監構内に移されましたが、標茶町郷土館そばの記念碑が、塘路が標茶発祥の地であることを伝えています。



【のんびり湿原列車】



●釧路湿原ノロッコ号 釧路駅~塘路駅

「のろのろ」と「トロッコ」を組み合わせて命名された4月~10月の限定列車。窓を大きくとった特別仕様の展望車が大人気です。



●SL冬の湿原号 釧路駅~標茶駅

1月下旬~2月下旬の限定運行。車内販売のスルメをダルマストープであぶって、汽笛を聞きながら、1時間半のSL旅です。



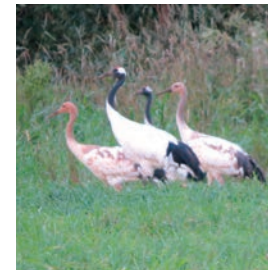
標茶周辺マップ

- 1 西別岳
至 屈斜路湖
- 2 オオカミの森
至 阿寒湖
- 3 シュワンベツダム湖
至 鶴居村
- 4 標茶町育成牧場
- 5 多和平展望台





●監修／標茶町郷土館
学芸係長 坪岡 始
(旧釧路集治監庁舎／標茶町指定有形文化財)
標茶町字塘路56番地
TEL:015-487-2332
開館:9:30～16:30(12月30日～1月5日は休館)
入館料:無料



丹頂の親子

2017年3月発行

 **大地みらい 信用金庫**

〒087-8650 北海道根室市梅ヶ枝町3丁目15番地
TEL (0153) 24-4101

一般財団法人

**大地みらい
基金**

TEL (0153) 24-4104